

【第6回 佐賀県鳥インフルエンザ対策本部会議】 12月7日

農林水産部長／殺処分が11時間30分で終了、防疫作業も前倒して進んでいる。現在、使用済み防護服等の汚染物品の埋却、農場内の鶏舎の消毒、敷地内の消毒、敷地内の地面への消石灰の散布作業を行っている。鶏糞は、鶏舎内に堆積発酵させる。

動員者数は、第4クールまで入っており、総動員人数は1,223名。

防災監／6日5時の疑似患畜決定から殺処分を開始、16時38分に終了。通常24時間かかるところ、12時間で済んだため、その後の汚染物品処理、廃棄処理が半日早く始まった。汚染物品処理は、飼料や卵の処理。卵は、5万5,000個を回収し、埋却地に投入し、最終的に埋め戻しをする。

最大の作業である堆肥処理とは、鶏舎内発酵の作業。40mほどの鶏舎の通路に、堆肥を集めて消石灰を混ぜ、ブルーシートをかぶせ消石灰で囲み発酵させる。本来は、鶏舎内から出して埋却地に埋めるのが原則。これまでに、県内で2例の鶏舎内発酵措置をした事例があるため、実施している。

これは農林水産省からの承諾を前提に進行中で、もし農林水産から、堆肥は搬出して埋却処分すべき、との指示があれば、そちらに従う。鶏舎内発酵ならば、今日の夜までに埋め戻し、防疫処置は終了する。堆肥処理は21時を目処に作業中で、今日中に終わらせたい。防疫措置の完了後は、21日間の消毒が必要になる。

鶏舎は2～6号鶏舎と、卵を産んでいない育成舎が2つ。各鶏舎内外の消毒、鶏舎敷地内の消毒と消石灰の配布、鶏糞堆積発酵処理のための消石灰の投入、鶏糞のかき出し等の作業をする。2～5号舎と、6号舎～育成舎の構造が違う。前者の方が大がかりな作業のため、優先的に進めている。6号鶏舎のかき出しは終了した。育成舎も鶏糞等が少なく、時間はかからない。鶏舎内外の堆肥処理と並行しながら鶏舎内外の消毒と消石灰の散布をしている。

現場職員には、厳しい作業をトラブルなく順調に進めてもらっている。

農林水産部長／6日火曜日の5時の疑似患畜決定を起点に、国の目標である72時間以内完了は9日金曜日の5時。作業は前倒して進行し、防疫措置、封じ込め完了の目標が今夜。次回の対策本部会議は、封じ込め完了後に開催したい。

封じ込め期、防疫措置のフェーズでは、知事が対策本部長。防疫措置終了後は、副知事に移行し体制を整える。

防疫措置完了後、何もなく21日間経過すれば、移動制限区域を解除。その後の農場の再開も支援していく。

知事／現地対策本部の努力、職員はじめ各スタッフ、様々な皆さん方の協力を得て、順調に推移している。関係した全ての皆さんに感謝申し上げます。

防疫措置が、今日中に終了する可能性も十分出てきた。事故なく気持ちを一つにし、72時間対応を今日中に終わらせたい。現場の皆さんはお疲れだろうが、よろしく願います。